

資料4 福岡空港に必要な機能、整備・取組について

福岡空港に必要な機能、整備・取組について

1. 航空ネットワークの拡充

九州・西日本地域の発展、成長を牽引し国内外との交流の活発化を支える拠点として、国内外の多彩な航空ネットワークを活かした国際展開により、アジアの未就航都市や欧米、豪州などとのネットワークも強化するなど、さらにも一層、海外との戦略的な航空ネットワークの拡充が必要である。

そのため、広域へのアクセス利便性やアジアとの近接性を活かして、国内外の路線誘致を強化し、過密化が進む福岡空港の貴重な発着枠を未就航の国際路線等へ優先配分するなど、地域戦略を踏まえた戦略的な空港運営が必要である。

さらに、現在の福岡空港は、発着回数が定時性を保ちながら安定的な処理を可能とする処理値を上回っており、朝夕の混雑時間帯は、混雑や遅延等が常態化している。アジア等の旺盛な需要を取り込み、航空ネットワークの拡充を図るためにも、平行誘導路二重化の早期完成及び滑走路増設の早期着工・早期完成により、空港容量を確保することが必要である。なお、空港運用を円滑化・効率化するためにヘリコプターを空港場外に移設することも考えられる。

<航空ネットワーク拡充のための必要な整備・取組>

◆戦略的な路線誘致

- ・未就航のアジアの各都市、欧米、豪州線などビジネス、観光需要を取り込むための戦略的な路線誘致。

◆地域戦略を踏まえた空港運営の実施

- ・未就航国際路線への発着枠の優先配分など、地域戦略を踏まえた空港運営の実施。
- ・利用者利便を高める多様な航空料金、サービスの提供。

◆空港容量確保のための迅速な施設整備

- ・平行誘導路二重化の早期完成。
- ・滑走路増設の早期着工・早期完成。

2. 更なる利用者利便の向上

福岡空港は、福岡、九州、西日本の玄関口であることから、空港の受け入れ環境を整え、旅客の利便性の向上を図る必要がある。また、利用者のアクセス利便性の更なる強化も目指す必要がある。

<利用者利便向上のための必要な整備・取組>

◆旅客ターミナル機能の充実

- ・現在、福岡空港ビルディング(株)において取組が進められている国内線旅客ターミナルビル再整備。
- ・今後増大が見込まれる航空需要に対応した国際線旅客ターミナルビルの機能強化。

◆空港アクセスの強化

- ・ 空港ターミナルへの交通アクセスの向上。
- ・ 国際線利用者の大幅な増加に対応するため、国際線ターミナルと都心部のアクセス向上。
- ・ 国際線ターミナルと国内線ターミナル間の移動の更なる円滑化。

3. 北九州空港との役割分担、相互補完の促進

福岡空港は市街地に立地しており利用時間が7時から22時までに制限されていることから、24時間利用可能な海上空港である北九州空港との役割分担、相互補完を通じて、今後とも増大し多様化する航空需要に幅広く応えていく必要がある。

<北九州空港との役割分担と相互補完の促進のための必要な整備・取組>

◆24時間空港（北九州空港）の特色を活かした路線展開

- ・ 福岡空港の発着枠を超える就航希望航空会社（特にLCC）の誘導。
- ・ 福岡空港で対応できない早朝、深夜便の誘導。
- ・ なお、これらを円滑にするために福岡都市圏とのアクセスの改善が必要。

◆マルチエアポート化の推進

- ・ 福岡空港、北九州空港間での航空券を変更可能にするマルチエアポート化の推進。